

盲ろうの人とヘレン・ケラー

重複障害に関して私が特に興味を抱いていたことは、盲ろうの人たちはどのような方法で文字や物を覚えたり認識しているのだろうかということだった。本講義において盲ろうの人の疑似体験を行うことがあった際には、周囲の人が手を握ってきたり、手に指文字を書いてきたりしてきたのだが、指文字で何を書かれたのかを理解することができなかった。

盲ろうの人といえば、やはりヘレン・ケラーを思い浮かべる。幼少の頃より名前を聞く機会があったが、名前と盲ろうの人であること以外についてヘレン・ケラーがどのような人物であったのか、具体的に何をした人物なのかを知らないまま過ごしてきた。この機会に伝記本や資料「ヘレンケラーって何をした人??」を閲覧したことでようやくどのような人物であるのかを知ることができた。

ヘレン・ケラーは私が疑似体験の際に理解することができなかった指文字や、日常生活などを通して言葉を覚えたり理解したと知って驚いた。家庭教師であるサリバン先生が根気強くヘレン・ケラーと関わったことで、言葉以外にも幼い子ども故の痼疾や我が儘な性格の改善もされたと記されていた。

このことから障害のある人と根気強く向き合うことがとても重要なことであると改めて痛感した。特に、盲ろうの人は音が聞こえない上に何も見えないため、周囲の状況を把握する必要があるため他の障害のある人以上に自身をサポートする人と非常に強い信頼関係がなければいけないのではないかと考えた。

参考文献

- ・おもしろくて やくにたつ 子どもの伝記7 ヘレン・ケラー
発行年：1998年,著者：砂田弘,出版社：株式会社ポプラ社